

第43回バイオマスタウンの公表

【新規公表：4構想の概要】

・北海道 南幌町（なんぼろちょう）

南幌町は、稲わらを原料とし化石燃料に替わる固形燃料を製造し、基幹産業の農業に次ぐ関連産業として取り組み、新たな雇用の創出、CO₂削減など地域環境の保全などを図る。また、製造した固形燃料を温泉施設・公共施設・農業施設等で使用し、燃焼灰は農地に土壌改良剤として還元する地域循環型農村社会を構築し、食料供給と両立する農業系バイオマス利活用による環境保全と地域活性化を目指す。

・和歌山県 紀の川市（きのかわし）

紀の川市は、持続可能なまちづくりの基盤となる農業を、バイオマスの活用や、地域の高齢者・障害者をはじめ様々な人々が農業に関わり続ける仕組みの構築と合わせ、環境福祉産業への充実を図り、ごみの減量化・軽量化及び再資源化並びに資源循環型社会の構築のため、地域住民や地元企業と連携して、食品資源や汚泥、家畜排せつ物、木質資源、農産資源物等のバイオマスの効率的な利活用を体系化するとともに、人的・知的資源を有する地元の大学や地元産業界・行政との連携及び地域の高齢者や障害者の循環型社会への参加等、将来にわたって持続可能な社会システム構築を目指す。

・高知県 四万十町（しまんとちょう）

四万十町は、農・林・水産及び畜産バイオマスや、生ごみ・汚泥などの都市型バイオマスを、エネルギーとマテリアルの両輪による循環型の資源として利活用し、四万十川の清流を守り、環境に優しい町づくりと「山と川と海、自然と人が元気」な町の構築を目指す。

・大分県 竹田市（たけたし）

竹田市は、「竹田らしさ、持続性・自立性、資金面の計画性」を重視したバイオマス利活用を推進し、家畜排せつ物を中心とするたい肥化や廃食用油のバイオディーゼル燃料化、生ごみを中心としたメタン発酵の他、市内に多く賦存する森林・竹バイオマスの燃料化やたい肥化などによる資源の地域循環利用を目指す。